

外せない、地域防災に女性参加

横浜市会議員 伏見ゆきえ

8月に行った市政報告会で、男女共同参画センター横浜の白藤香織館長

は性別や年齢、病気や障害の有無、経済状況によつてことなります。

に「男女共同参画の視点 阪神淡路大震災では、

による地域防災への取り組み」についてお話をしていたきました。

災害が起きた際の影響 この背景には経済的理由が挙げられますが、世界

の研究においても、女性のほうが自然災害の影響を受けやすいことが明らかになっています。

避難所や物資の問題を共に解決

災害時に女性が抱える困難には「授乳や着替えをする場所がない」「女性ばかりが毎日大量の炊

き出しを担当し、疲労困憊した」「年齢や性別問わず性被害が起きていた」など。避難所で受ける物資においても、女性が必要と感じる物資が男性が必要と感じる物資の差が大きくありま

した。

元日に起きた能登半島地震では、介護や育児、看護などのサービス復旧

が遅れたことから、それらの役割を女性が一気に担うことになったそうです。避難所で抱える女性の課題を解決するためには平時から、自治会を含

め地域での取り組みに女性が積極的に加わる必要があると考えます。



伏見ゆきえ

2015年に横浜市会議員初当選。現在3期目。

連絡事務所/〒244-0816 戸塚区上倉田町447-1
ブルーシュ戸塚502号室 ☎045・443・5757 / FAX
045・443・5671 / Facebookで日々の活動更新中!

性ばかりが毎日大量の炊き出しを担当し、疲労困憊した」「年齢や性別問わず性被害が起きていた」など。避難所で受ける物資においても、女性が必要と感じる物資が男性が必要と感じる物資の差が大きくありま